

企業も地球人として生きる

COLUMN
県内大学発
経世済民

(539)

埼玉学園大学

一戸 真子 経済経営学部 教授



企業にグローバルな課題解決への参画を求め、世界の経営トップに「人間の顔をしたグローバルイニシアティブ」への取り組みを促したことがきっかけとされている。

コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCONJ=Global Compact Network Japan）が03年12月に発足しており、日本の各企業もUNGCCに署名し、活動を展開している。

国連グローバル・コンパクト（UNGCC=United Nations Global Compact）とは、各企業・団体が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加する自発的な取り組みを意味する。当時の国連事務総長であったコフィー・アナン氏が、1999年の世界経済フォーラム（ダボス会議）において、

UNGCCにおいては、2001年11月20日時点で、世界約160カ国以上の1万3912の企業を含む各種団体が、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野・10原則を軸に活動を展開している。世界各国のローカルネットワークは、持続可能な発展を目指すプラットフォームとして活動しており、日本においても、グローバル・

国連気候変動枠組み条約第25回締約国会議（COP25）がスペインの首都マドリッドで2日から開催中である。今年も世界中で熱波や豪雨などによるさまざまな被害が相次いだ。日本においても例外ではない。地球温暖化は一層深刻さを増してきていることを世界中の人々が実感してきた。

健康に影響を与える環境には、地球上のすべての生物に直

いちのへ・しんこ 1966年生。東京大学大学院医学系研究科博士課程修了。博士（保健学）。北海道医療大学専任講師、高崎健康福祉大学助教授、上武大学教授を経て2013年4月から現職。専門は医療・健康経営学、管理学。主な著書『グローバル・ヘルス・ビジネス』（日本経済評論社）、『ヘルスケアサービスの質とマネジメント』（社会評論社）、『賢い医療消費者になるために』（社会評論社）など。

宇宙から見ても青く美しく、さまざまな生命に溢（あふ）れている素晴らしい「地球」を、経済活動のかなめである企業が中心となり、守り抜いていきたい。